
人柱

ララ lala

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人柱

【Nコード】

N3327I

【作者名】

ララ lala

【あらすじ】

人柱とは、百年前に作る事を封じられた神の怒りを封じる方法の一つ。

人柱を作るときには必ず、神を呼ぶ為人柱の歌を歌う。

その歌はもう誰もがきく事も歌う事もないと思っていた。

けれど、ある日高校に転入してきた如月透過はその歌を歌う。

つまり、人柱の再復活はもう、すぐそこ。

プロローグ

ある歌が聞こえてくる。

その歌は『人柱』の歌

その人柱は百年前にすることを封じ込められた事

けれど、この歌が聞こえてくるといふ事は

人柱ノ再復活ノ時

再復活

「この高校の人柱、完成」

静かながらも楽しそうに呟くその少女。

その彼女の髪は黒く長く、暗闇の中でも美しく光って見える。

けれど、その高校の制服には点々とした、真っ赤な血、血、血。。

「さてつと、次は何処かな？ ……この高校かぁ。あ、このまま帰つたら怪しまれるね……」

「う…あ」

小さなうめき声。

その声のした方向に目を向ける少女。

そのうめき声の方向にはクラスが同じだった少女。

「まだ生きてたの？ しぶといね、死んじゃった方がずっと楽なのに」

「助…けて。何でもするから……っ」

「ハハッ、何でもするだって？ 出来ねえくせに大口叩くんじゃねえよ」

彼女の口調が一瞬で変わる。

血まみれの少女を見て、せせら笑っている。

その少女のわきに立つと、しゃがみ、その少女の近くにあってナイフを取る。

「願いは助けて、だったけ？ 叶えるのは無理だよ、助けてって言

うなら殺してあげる。楽になるから良いでしょう？　じゃあね、私の偽親友さん」

ザクツ……。

その少女の左胸を後ろから突き刺す。

その姿を見て、死んだことを確認すると突如顔を洗い始める。

そのまま必死な表情で走り出し、坑内から駆け足で出ていく少女。

息を荒くし、辿り着いたところは何故か警察署。

必死な様子で扉を叩く少女、警官が着た途端にしゃがみ込む。

彼女の血まみれの服を見て、警官は驚く。

「ど、どうかしましたか……」

「今日、みんなで夜、学校に肝試しに行ってたんです……。そして、知らない人が物陰から出てきてみんなを殺して……、必死で逃げてきたんです。お願いです、助けてください……」

少女はガタガタと震えている。

少女は、全てをも魅了するのか、そして、世界に人柱を再復活させるのか。

再復活（後書き）

プロローグを見た方は分かると思いますが、これは人柱メインです。

これから、話が始まるので、これを見て興味がわいた人は見てください。

次からは、結構ほのぼのです。

+++

「今日は転入生いるぞー！！ 早く席着け！！」

ザワザワとした教室の扉の前に佇む少女。
長い髪をサラリと靡かせながら窓に寄りかかっている。

「入ってきていいぞー！！」

その言葉に彼女はハツとし、扉を静かに開いた。

その途端に教室は静かになり、感嘆の息があちらこちらから漏れ
ている。

男はその彼女をじっと見つめ、女はその彼女に嫉妬の気持ちを抱
いていた。

「如月、透過……です。 よろしくお願いします……」

“如月透過” その名前は彼女に相応しい美しい名前だった。
けれど、美しいと同時に透過は何かに脅えているようにも見えた。

「如月は、少し前に大量殺人があつた園生校の生徒でな……。 園
生高の前に如月がいた渕野高も大量殺人の場になっていて、彼女は
自分が疫病神何じゃないかと脅えていてな……」

「瀏野高の前の…淺木高でも大量殺人があつて…私、一人だけ逃げてきちゃつて……」

この場に居るとの者が彼女が大量殺人の犯人なのだと思つたことだろうか。

***透過視点

+++

ニンゲンってバツカみたい。ちょっと怖がってあげたらすぐに信じちゃう。

かく言う私もニンゲンだけど、アンタたちみたいに弱くない。自分の道は見つけるし。

憂鬱。隣の女の子も私を気にかけてか話しかけて来ない。

確か名前は……そうだ。和屋佐南だった気がする。

「えーっと……和屋、さん？ ……教科書見せてもらえないかな……」。

私、まだ貰っていなくて」

「あ、うん。良いよ？ えっとー、後『和屋さん』じゃなくて佐南でいいんだから」

私は以後その和屋佐南を和屋佐南やみんなの前でだけ佐南ちゃんと呼ぶ事にした。

和屋佐南の仲の良い人が分かった。同じクラスで席の近い、

牧原悠里。

牧原悠里の隣は、大川利波。

「透過ちゃん！！初めまして、大川利波だよ。よろしくね」

「はい……、よろしくお願ひします。大川、さん」

「無理して敬語なんて使わなくても良いのに。本当はこんな奴ら

に敬語なんて使いたくないって心の中では思ってるんでしょ？」

ツンとした声が出た。 同じクラスの……確か崎野茉莉花。

この子は一番人柱に値していなさそうだ。 仲間にしようかな……。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3327i/>

人柱

2011年1月8日15時02分発行